

社会科、地理歴史科、公民科の指導内容一覧

平成28年1月18日
 教育課程部会
 社会・地理歴史・公民
 ワーキンググループ
 資料8

小学校 社会科

指導内容

第3学年・第4学年	<p>(1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市（区，町，村）</p> <p>ア 身近な地域や市（区，町，村）の特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設などの場所と働き，交通の様子，古くから残る建造物など</p> <p>(2) 地域の人々の生産や販売</p> <p>ア 生産や販売に関する仕事があり，それらは自分たちの生活を支えていること。</p> <p>イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとのかかわり</p> <p>(3) 地域の人々の生活</p> <p>ア 飲料水，電気，ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり</p> <p>イ これらの対策や事業は計画的，協力的に進められていること。</p> <p>(4) 地域社会における災害及び事故の防止</p> <p>ア 関係機関は地域の人々と協力して，災害や事故の防止に努めていること。</p> <p>イ 関係の諸機関が相互に連携して，緊急に対処する体制をとっていること。</p> <p>(5) 地域の人々の生活</p> <p>ア 古くから残る暮らしにかかわる道具，それらを使っていたころの暮らしの様子</p> <p>イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事</p> <p>ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例</p> <p>(6) 県（都，道，府）の様子</p> <p>ア 県（都，道，府）内における自分たちの市（区，町，村）及び我が国における自分たちの県（都，道，府）の地理的位置，47都道府県の名称と位置</p> <p>イ 県（都，道，府）全体の地形や主な産業の概要，交通網の様子や主な都市の位置</p> <p>ウ 県（都，道，府）内の特色ある地域の人々の生活</p> <p>エ 人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかかわり</p>
第5学年	<p>(1) 我が国の国土の自然などの様子</p> <p>ア 世界の主な大陸と海洋，主な国の名称と位置，我が国の位置と領土</p> <p>イ 国土の地形や気候の概要，自然条件から見て特色ある地域の人々の生活</p> <p>ウ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ</p> <p>エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止</p> <p>(2) 我が国の農業や水産業</p> <p>ア 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること，食料の中には外国から輸入しているものがあること。</p> <p>イ 我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など</p> <p>ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力，生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き</p> <p>(3) 我が国の工業生産</p> <p>ア 様々な工業製品が国民生活を支えていること。</p> <p>イ 我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など</p> <p>ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力，工業生産を支える貿易や運輸などの働き</p> <p>(4) 我が国の情報産業や情報化した社会の様子</p> <p>ア 放送，新聞などの産業と国民生活とのかかわり</p> <p>イ 情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり</p>
第6学年	<p>(1) 我が国の歴史上の主な事象</p> <p>ア 狩猟・採集や農耕の生活，古墳について調べ，大和朝廷による国土の統一の様子が分かること。その際，神話・伝承を調べ，国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。</p> <p>イ 大陸文化の摂取，大化の改新，大仏造営の様子，貴族の生活について調べ，天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起こったことが分かること。</p> <p>ウ 源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いについて調べ，武士による政治が始まったことが分かること。</p> <p>エ 京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ，室町文化が生まれたことが分かること。</p> <p>オ キリスト教の伝来，織田・豊臣の天下統一，江戸幕府の始まり，参勤交代，鎖国について調べ，戦国の世が統一され，身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること。</p> <p>カ 歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学について調べ，町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること。</p> <p>キ 黒船の来航，明治維新，文明開化などについて調べ，廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い，欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。</p> <p>ク 大日本帝国憲法の発布，日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展などについて調べ，我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。</p> <p>ケ 日華事変，我が国にかかわる第二次世界大戦，日本国憲法の制定，オリンピックの開催などについて調べ，戦後我が国は民主的な国家として出発し，国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。</p> <p>(2) 我が国の政治の働き</p> <p>ア 国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。</p> <p>イ 日本国憲法は，国家の理想，天皇の地位，国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていること。</p> <p>(3) 世界の中の日本の役割</p> <p>ア 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子</p> <p>イ 我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き</p>

中学校 社会科

教科目標	広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
------	--

(地理的分野)

分野目標	(1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地味特徴を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。 (2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわり度とらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地味特徴や地域の課題をとらえさせる。 (3) 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。 (4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。
(1) 世界の様々な地域	ア 世界の地域構成 地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などを取り上げ、世界の地域構成を大観させる。 イ 世界各地の人々の生活と環境 世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。 ウ 世界の諸地域 世界の諸地域について、以下の(ア)から(カ)の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地味特徴を理解させる。 (ア) アジア (イ) ヨーロッパ (ウ) アフリカ (エ) 北アメリカ (オ) 南アメリカ (カ) オセアニア
(2) 日本の様々な地域	ア 日本の地域構成 地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを取り上げ、日本の地域構成を大観させる。 イ 世界と比べた日本の地味特徴 世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地味特徴を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観させる。 (ア) 自然環境 世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。 (イ) 人口 世界的視野から日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させるとともに、国内の人口分布、過疎・過密問題を取り上げ、日本の人口に関する特色を大観させる。 (ウ) 資源・エネルギーと産業 世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる。 (1) 地域間の結び付き 世界的視野から日本と世界との交通・通信網の発達の様子や物流を理解させるとともに、国内の交通・通信網の整備状況を取り上げ、日本と世界の結び付きや国内各地の結び付きの特色を大観させる。 ウ 日本の諸地域 日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、以下の(ア)から(ハ)で示した考察の仕方に基づいて、地味特徴をとらえさせる。 (ア) 自然環境を中核とした考察 (イ) 歴史的背景を中核とした考察 (ウ) 産業を中核とした考察 (エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察 (オ) 人口や都市・村落を中核とした考察 (カ) 生活・文化を中核とした考察 (キ) 他地域との結び付きを中核とした考察
(3) 身近な地域の調査	身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。

(歴史的分野)

分野目標	(1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。 (2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。 (3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。 (4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。
(1) 歴史のとらえ方	ア 我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動を通して、時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる。 イ 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる。 ウ 学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる。
(2) 古代までの日本	ア 世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷による統一と東アジアとかかわりなどを通して、世界の各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。 イ 律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる。 ウ 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを通して、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解させる。
(3) 中世の日本	ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。 イ 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。
(4) 近世の日本	ア 戦国の動乱、ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武將や豪商などの生活文化の展開などを通して、近世社会の基礎がつくられていったことを理解させる。 イ 江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係などを通して、江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。 ウ 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを通して、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。 エ 社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを通して、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる。
(5) 近代の日本と世界	ア 欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。 イ 開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化などを通して、新政府による改革の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。 ウ 自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを通して、立憲制の国家が成立して議院政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。 エ 我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを通して、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解させる。 オ 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを通して、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。 カ 経済的世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを通して、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。
(6) 現代の日本と世界	ア 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを通して、第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えさせ、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。 イ 高度経済成長、国際社会とかかわり、冷戦の終結などを通して、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。

(公民的分野)

分野目標	(1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。 (2) 民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。 (3) 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。 (4) 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。
(1) 私たちと現代社会	ア 私たちが生きる現代社会と文化 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付かせる。また、現代社会における文化の意義や影響を理解させるとともに、我が国の伝統と文化に関心をもたせ、文化の継承と創造の意義に気付かせる。 イ 現代社会をとらえる見方や考え方 人間は本来社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。その際、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付かせる。
(2) 私たちと経済	ア 市場の働きと経済 身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の動きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考えさせる。 イ 国民の生活と政府の役割 国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の動きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。また、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせる。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させる。
(3) 私たちと政治	ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深めさせ、法の意義を理解させるとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせる。また、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解させる。 イ 民主政治と政治参加 地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。また、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義について考えさせるとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深めさせる。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させるとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせる。その際、選挙の意義について考えさせる。
(4) 私たちと国際社会の諸課題	ア 世界平和と人類の福祉の増大 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識させ、国際社会における我が国の役割について考えさせる。その際、日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えさせるとともに、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。 イ よりよい社会を目指して 持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。

高等学校 地理歴史科

教科目標	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。
------	--

(「世界史」領域)

【世界史A】

科目目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
(1) 世界史へのいざない	自然環境と歴史 日本、世界の歴史のつながりにかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、世界史学習の基本的技能に触れさせるとともに、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。 ア 自然環境と歴史 イ 日本列島の中の世界の歴史
(2) 世界の一体化と日本	近現代世界を理解するための前提として、ユーラシアの諸文明の特質に触れるとともに、16世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に、世界が一体化に向かう過程を理解させる。その際、世界の動向と日本とのかかわりに着目させる。 ア ユーラシアの諸文明 イ 結びつく世界と近世の日本 ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 エ アジア諸国の変貌と近代の日本
(3) 地球社会と日本	地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解させ、人類の課題について歴史的観点から考察させる。その際、世界の動向と日本とのかかわりに着目させる。 ア 急変する人類社会 イ 世界戦争と平和 ウ 三つの世界と日本の動向 エ 地球社会への歩みと課題 オ 持続可能な社会への展望

【世界史B】

科目目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
(1) 世界史への扉	自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。 ア 自然環境と人類のかかわり イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり ウ 日常生活にみる世界の歴史
(2) 諸地域世界の形成	人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。 ア 西アジア世界・地中海世界 イ 南アジア世界・東南アジア世界 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 エ 時間軸からみる諸地域世界
(3) 諸地域世界の交流と再編	ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。 ア イスラーム世界の形成と拡大 イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 エ 空間軸からみる諸地域世界
(4) 諸地域世界の結合と変容	アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。 ア アジア諸地域の繁栄と日本 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ウ 産業社会と国民国家の形成 エ 世界市場の形成と日本 オ 資料からよみとく歴史の世界
(5) 地球世界の到来	科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。 ア 帝国主義と社会の変容 イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 ウ 米ソ冷戦と第三世界 エ グローバル化した世界と日本 オ 資料を活用して探究する地球世界の課題

(「日本史」領域)

【日本史A】

科目目標	我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
(1) 私たちの時代と歴史	現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的対象と現在との結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。
(2) 近代の日本と世界	開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる。 ア 近代国家の形成と国際関係の推移 イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 ウ 近代の追究
(3) 現代の日本と世界	第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。 ア 現代日本の政治と国際社会 イ 経済の発展と国民生活の変化 ウ 現代からの探究

【日本史B】

科目目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
(1) 原始・古代の日本と東アジア	原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。 ア 歴史と資料 イ 日本文化の黎明と古代国家の形成 ウ 古代国家の推移と社会の変化
(2) 中世の日本と東アジア	中世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。 ア 歴史の解釈 イ 中世国家の形成 ウ 中世社会の展開
(3) 近世の日本と世界	近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。 ア 歴史の説明 イ 近世国家の形成 ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容
(4) 近代日本の形成と世界	近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。 ア 明治維新と立憲体制の成立 イ 国際関係の推移と立憲国家の展開 ウ 近代産業の発展と近代文化
(5) 両世界大戦期の日本と世界	近代国家の展開と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。 ア 政党政治の発展と大衆社会の形成 イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会 ウ 第二次世界大戦と日本
(6) 現代の日本と世界	現代の社会や国民生活の特色について、国際環境と関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。 ア 現代日本の政治と国際社会 イ 経済の発展と国民生活の変化 ウ 歴史の論述

(「地理」領域)

【地理A】

科目目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察	世界諸地域の生活・文化及び地球の課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的技術及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。 ア 地球儀や地図からとらえる現代世界 イ 世界の生活・文化の多様性 ウ 地球の課題の地理的考察
(2) 生活圏の諸課題の地理的考察	生活圏の諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、地理的技術及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。 ア 日常生活と結び付いた地図 イ 自然環境と防災 ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査

【地理B】

科目目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
(1) 様々な地図と地理的技術	地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地図の有用性に気付かせるとともに、地理的技術を身に付けさせる。 ア 地理情報と地図 イ 地図の活用と地域調査
(2) 現代世界の系統地理的考察	世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的な規則性、傾向性やそれらの要因などを系統地理的に考察させるとともに、現代世界の諸課題について地球の視野から理解させる。 ア 自然環境 イ 資源、産業 ウ 人口、都市・村落 エ 生活文化、民族・宗教
(3) 現代世界の地誌的考察	現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解させるとともに、現代世界を地誌的に考察する方法を身に付けさせる。 ア 現代世界の地域区分 イ 現代世界の諸地域 ウ 現代世界と日本

高等学校 公民科

教科目標	広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。
------	--

【現代社会】	
科目目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
(1) 私たちの生きる社会	現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。
(2) 現代社会と人間としての在り方生き方	<p>ア 青年期と自己の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯における青年期の意義、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化、自己形成の課題、現代社会における青年の生き方についての自覚 <p>イ 現代の民主政治と政治参加の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方、民主政治における個人と国家、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理についての自覚 <p>ウ 個人の尊重と法の支配</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊重、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等など、他者と共に生きる倫理についての自覚 <p>エ 現代の経済社会と経済活動の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の経済社会の変容、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連、雇用、労働問題、社会保障、個人や企業の経済活動における役割と責任 <p>オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化が進化する国際社会における政治や経済の動向、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域経済統合、南北問題など国際社会における貧困や格差、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方
(3) 共に生きる社会を目指して	持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。

【倫理】	
科目目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格に形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
(1) 現代に生きる自己の課題	自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる。
(2) 人間としての在り方生き方	<p>ア 人間としての自覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義など、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題、人間としての在り方生き方についての考えの深まり <p>イ 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質、我が国の風土や伝統、外来思想の受容と自己とのかかわり、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方についての自覚
(3) 現代と倫理	<p>ア 現代に生きる人間の倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福など、倫理的な見方や考え、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題としての考えの深まり <p>イ 現代の諸課題と倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて探究する活動、論理的思考力や表現力、現代に生きる人間としての在り方生き方についての自覚

【政治・経済】	
科目目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
(1) 現代の政治	<p>ア 民主政治の基本原則と日本国憲法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所などの政治機構の概観、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治など、民主政治の本質や現代政治の特質、政党政治や選挙など、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方 <p>イ 現代の国際政治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献、国際政治の特質や国際紛争の諸要因、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割
(2) 現代の経済	<p>ア 現代経済の仕組みと特質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動の意義、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働き、現代経済の特質、経済活動の在り方と福祉の向上との関連 <p>イ 国民経済と国際経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割、グローバル化が進む国際経済の特質、国際経済における日本の役割
(3) 現代社会の諸課題	<p>ア 現代日本の政治や経済の諸課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会と社会保障、地域社会の変貌と住民生活、雇用と労働を巡る問題、産業構造の変化と中小企業、農業と食料問題などについて、政治と経済とを関連させて探究させる。 <p>イ 国際社会の政治や経済の諸課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、人種・民族問題と地域紛争、国際社会における日本の立場と役割などについて、政治と経済とを関連させて探究させる。